

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
刈谷駅南地区

平成27年11月

愛知県刈谷市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	人	46,535(H19)	58,657(H25)	155,029	見込み		あり	138,876	H27年11月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	子育て世代活動支援センターと保健センターの整備が一体的にされたことにより相乗効果を生み、効果発現に寄与した。 また、隣接する地域交流センター、中央生涯学習センター、商業施設等の都市機能集積の高まり、交通結節点としての利便性、安全性の高まりが、間接的に効果発現に寄与した。	
指標2	人	90,655(H19)	160,264(H25)	281,952	見込み		あり	267,457	H27年11月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	地域交流センター整備とともに、開館記念事業などソフト事業が相乗効果を生み、効果発現に寄与した。 また、中央生涯学習センター、子育て世代活動支援センター、保健センター、商業施設等の都市機能集積の高まり、交通結節点としての利便性、安全性の高まりが間接的に効果発現に寄与した。	
指標3	人	147,478(H19)	379,340(H25)	320,848	見込み		あり	296,540	H27年11月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	確定値によれば、数値目標達成に至っていないが、地域交流センター整備との相乗効果を生み、市民の大幅な利用促進につながった。質の面からみても、施設の規模及び機能の拡大(陶芸、音楽制作、PC研修等)が図られたことで、市民の文化活動の多様化に的確に対応できる柔軟性が向上している。これらのことから、市民の多様な余暇活動による自己実現の場の充実や、共通の趣味を持った市民が集うことによる中心市街地のにぎわい創出の効果は顕著に現れていると判断できる。改善のための方策として、引き続き庁内連携、指定管理者との連携のもと、市民の生涯学習ニーズに的確に対応した、より魅力ある講座、イベント等の企画運営を図る。	

指標4	歩行空間快適度	%	39.0(H20)	74.6(H25)	75.9	確定 見込み		あり なし	-	H 年月			改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	道路整備(歩車分離、透水性舗装、誘導ブロック、無電柱化)により、道路の安全性、快適性、景観向上が図られ、効果発現に寄与した。 また関連事業(市街地再開発事業)は、歩行空間の安全、利便性向上や景観形成による快適性向上に間接的に大きな貢献を果たしている。
指標5	緑の豊かさ	%	92.6(H23)	96.9(H25)	96.9	確定 見込み		あり なし	-	H 年月			改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	大手公園、大手広場の整備により、都市再生整備計画区域内のオープンスペースがより充実し、効果発現に寄与した。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1		0(H19)	/	2,014(6,290) ()内は延べ参加者数	確定 見込み	/	/	-	H 年月	/		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	市及び指定管理者主催の講座は、従前施設では開催されておらず、当施設の整備を契機に、多くの各種講座が開催され、多くの受講数が見られることから、生涯学習機会が明らかに充実していることがわかる。 また、募集定員に対する応募率(138%)、参加率(79%)も高く、市民の関心も高まっていることがわかる。
その他の数値指標2		0(H19)	/	416	確定 見込み	/	/	-	H 年月	/		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	同上

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・成果を持続させるために 行う方策 	保健センター、子育て世代活動支援センター、地域交流センター、中央生涯学習センター等の施設の維持と、道路、公園、広場等公共施設のアクセスに資する都市基盤施設の維持	多様な主体が参画し、市民ニーズに合致する各種講座やイベントを継続して開催した。また、商店街等による中心市街地活性化の取組を支援した。	商店街イベントが、年間の定例的な行事として開催されるようになったため、安定した参加者数を維持しており、継続的な賑わいの創出につながっている。	講座やイベントがマンネリ化しないよう、市民ニーズを的確に収集し、事業にフィードバックしていく必要がある。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策 	刈谷市駅周辺地区への都市活力の波及など、中心市街地全体としてのまちづくりの展開	刈谷市駅周辺にある市有地の活用を推進するため、民設民営となる公益施設整備の事業者を公募型プロポーザルにて決定した。	事業者による施設計画を実現することで、中心市街地全体としての活性化に貢献することができる。	左記事業の実施効果が周囲にも波及するよう、商店街や地域住民に対する情報収集やハード・ソフト含めた事業の実施を検討していく必要がある。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画 (精算版)

かりやえきみなみちく
刈谷駅南地区

あいち かりやし
愛知県 刈谷市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	刈谷市	地区名	刈谷駅南地区	面積	94.3 ha
計画期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度	交付期間	平成 21 年度 ~ 平成 25 年度				

目標
大目標: 心と体の健康を育む、賑わいのあるまちづくり 目標 市民の健康と子供たちの健やかな成長を支えるまちづくり 目標 生涯学習や文化活動などの余暇活動の推進 目標 市役所などの公共施設へのアクセス改善

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 本市は大正末期にトヨタ系企業の誘致により、近代産業都市としての足がかりを得るとともに、積極的な工業化施策を推進してきました。その後、高度経済成長とモータリゼーションの進展が相まって、自動車関連産業の集積地として発展してきました。そのなかで、刈谷駅南地区は、市の玄関口として市役所をはじめとする公共施設や医療・福祉施設の集積地であり、まちづくり交付金事業(平成16年度～平成20年度)や刈谷駅南地区市街地再開発事業により、ユニバーサルデザインに取り組むとともに、刈谷駅を中心とした市民生活の拠点づくりや賑わいの創出を図ってきましたが、なお一層駅前前の賑わいを創出するためには、従来の施策だけでなく、まちづくりの主体である市民一人ひとりが、心身ともに健康で生きがいを持つことも必要不可欠です。 市民の健康については「自分の健康は自分で守る」ことを基本としながらも、健康志向の高まりに対応し、健康づくりへの取組みを支援する必要があります。また、生活習慣が多様化するなか、子育て世代や団塊の世代など市民一人ひとりのライフステージに応じた社会経済活動への参加を促す環境を整備し、そのうえで各々が自己実現を達成するための舞台や環境を整備することなどで、心の健康にも注力していく必要があります。
課題
・健康意識の高まりや医療制度改革に対応できる施設機能や、子供たちの健やかな成長を支えるための子育て支援事業や保健、健康づくり事業充実のための施設機能が不足。 ・生涯学習や文化活動などの余暇活動を支える施設機能が不足。 ・市役所などの公共施設周辺のアクセス改善。
将来ビジョン(中長期)
市民一人ひとりが、より健康な生活を送ることができ、生きがいを持って人生を歩むことができる環境の整備。

目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
保健センター年間利用者数	人	保健センターの年間施設利用者数	従来の保健センター機能に加え、子育て支援施設や健康増進施設を併設し、高水準での市民の健康増進と集客力による賑わい創出を図る。	46,535	平成19年度	58,657	平成25年度
市民ホール年間利用者数	人	地域交流センター(市民ホール)の年間施設利用者数	施設の整備、大規模なイベントの誘致による来場者数の増加を図ることによって、中心市街地の賑わいを創出する。	90,655	平成19年度	160,264	平成25年度
中央生涯学習センター年間利用者数	人	中央生涯学習センターの年間利用者数	自己実現を達成するための施設を整備し、共通の趣味を持った人が集い、余暇活動を行うことを促すことによって、賑わいの創出を図る。	147,478	平成19年度	379,340	平成25年度
歩行空間快適度	%	歩行空間の快適度を示す4項目に対する整備率の平均値	市役所などの公共施設に向かう動線において、ユニバーサルデザインの歩行者空間を確保する。	39.0	平成20年度	74.6	平成25年度
緑の豊かさ	%	計画区域内の都市公園及び公共施設における緑地整備達成率	公園及び緑地を増やすことによって、屋外施設として市民の憩いの場を創出する。	92.56	平成23年度	96.93	平成25年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
『目標 市民の健康と子供たちの健やかな成長を支えるまちづくり』を目指し、課題として抽出した不足している健康・医療施設や子育て世代を支援するための施設を整備する。	保健センター
『目標 生涯学習や文化活動などの余暇活動の推進』を図るため、自己実現の達成に向けた多種多様な活動を支える施設を整備し、利用促進のイベントを実施する。	地域交流センター、中央生涯学習センター、刈谷市総合文化センター開館記念事業、大手公園、大手広場
『目標 市役所などの公共施設へのアクセス改善』を図るため、都市再生整備計画・刈谷駅周辺地区(平成16年度～20年度)から継続してユニバーサルデザインの導入を推進し、道路や施設の歩行者環境を向上させる。	市道2-298号線、市道2-303号線、市道01-25号線、(都)元刈谷線ほか、新庁舎建設事業、市街地再開発事業

その他

今後のまちづくりにおいては、公共交通結節点に商業機能や福祉・教育機能などの都市機能を集積し、コンパクトシティ化することが求められている。この都市再生整備計画は、公共施設や福祉・医療施設などが刈谷駅南地区に集積している立地特性を最大限に引き出すとともに、元気で幸せのあるまちの実現に向けた礎となるものである。

この計画がめざす賑わいの創出においては、駅前商店街が中心となって、地区住民や様々な団体との連携により「歩いて楽しいグルメ街のあるまち」を掲げて、花いっぱい運動やパトロール活動、また、愛知教育大学との連携によるイルミネーション事業などを展開している。さらに、誰もが訪れやすい中心市街地とするため、インフラ整備上だけでなく心のバリアフリーの環境づくりにも取り組んでいる。こういった取組みとハード整備が一体となることで、持続可能なまちづくりを可能にする。

一方で、第1期都市再生整備計画をはじめとする各種施策により、中心市街地において新たな施設機能が整備されることで、既存施設のあり方が課題となるが、より良いまちづくりに貢献できるような機能整備など活用方法を検討する。

